

Chemical Bonds 支部／教育・普及部門だより

東海支部発

第29回東海地区高等学校化学研究発表交流会

本年度の標記交流会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、Web上に専用のサイトを設け、令和2年11月3日(火・祝)から11月9日(月)を会期として、論文による研究発表と掲示板での質疑応答という形式で行われました。禍中の募集に対しては、年度初頭の休校による課外活動時間の不足などが懸念される中で7つの高校の団体から発表の申込がありました。開催の可否については、募集後も中止も含めて検討が続けられ、感染防止や参加者の通信環境などからWeb上での実施が決定されました。参加者は121名で、その内訳は、高校生のほか、大学・大学院生、高校教員・実習助手、大学教員でした。

発表会場のWebサイトには、発表資料である論文と資料動画へのリンクに加えて質疑応答用の掲示板が参加団体別に設置され、投稿された質問に対して発表団体の生徒が回答することで参加者間の交流が行われました。発表資料はどれも整理して提示されており、中には活動制限を感じさせない充実した内容のものも見られました。質疑応答では、対面の場合とは異なり、互いに熟慮する時間を設けられるためか、適確な質問と論理的に練られた回答もありました。会期終盤には、例年同様にそれぞれの研究発表と質疑応答に対して大学教員からコメントと講評が投稿されま



した。会期終了後には、発表資料と質疑応答を対象に審査が行われ、優秀な発表を行った3校に優秀賞、今後の進展が期待される4校に奨励賞が贈呈されました。また、優れた質問や回答を投稿した3名の生徒には討論賞が贈られました。

全日程終了後には、日本化学会東海支部の関根理香支部長からの全体講評が掲載されました。関根支部長は、各発表の特色に触れ、研究における疑問とその解決を繰り返すというワクワクする体験は将来研究を進めるときに活かされることを伝えるとともに、この特殊な環境下で本会に向けて準備して参加した生徒と、その指導に当たった教諭に敬意を表されました。(前林正弘 名城大学)